十勝毎日新聞
2014年（平成26年）3月11日　火曜日
発行所：十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

あすの帯広　最高気温　0℃　最低気温　−13℃
6～12時　12～18時

星屋　株式会社　市内西5南17　☎22-8800（HPもご覧下さい）
新築・分譲住宅は　賃貸・不動産売買は
星屋　賃貸　星屋不動産　賃貸

3.11鎮魂の祈り

東日本大震災3年

今なお26万人避難

進まぬ移転　除染も遅れ

東日本大震災は11日午後、発生から3年を迎える。警察庁によると、10日現在の死者は12都道県の1万5884人。岩手、宮城、福島各県を中心に2633人が今も行方不明だ。一方、震災後の傷病悪化で亡くなる「震災関連死」は3県で前年より300人以上増え、累計で3000人に迫る。避難生活の長期化によるストレスが要因とみられ、子どもの心身に与える影響も懸念される。

復興庁によると、2月13日現在の避難者は全国で約26万7000人。県外への避難は、東京電力福島第1原発事故が起きた福島が4万8000人、宮城7000人、岩手1400人。3県内で計9万7000人（1月末現在）がプレハブの仮設住宅暮らしを余儀なくされている。

用地確保の遅れや資材不足などから、被災者が入居する災害公営住宅は3県合わせた予定戸数の3%しか完成しておらず、高台などへの集団移転も造成が完了した地区は1割にとどまる。建設労働者の人材難による人件費の高騰もあり、公共工事の遅れが復興の足かせとなっている。

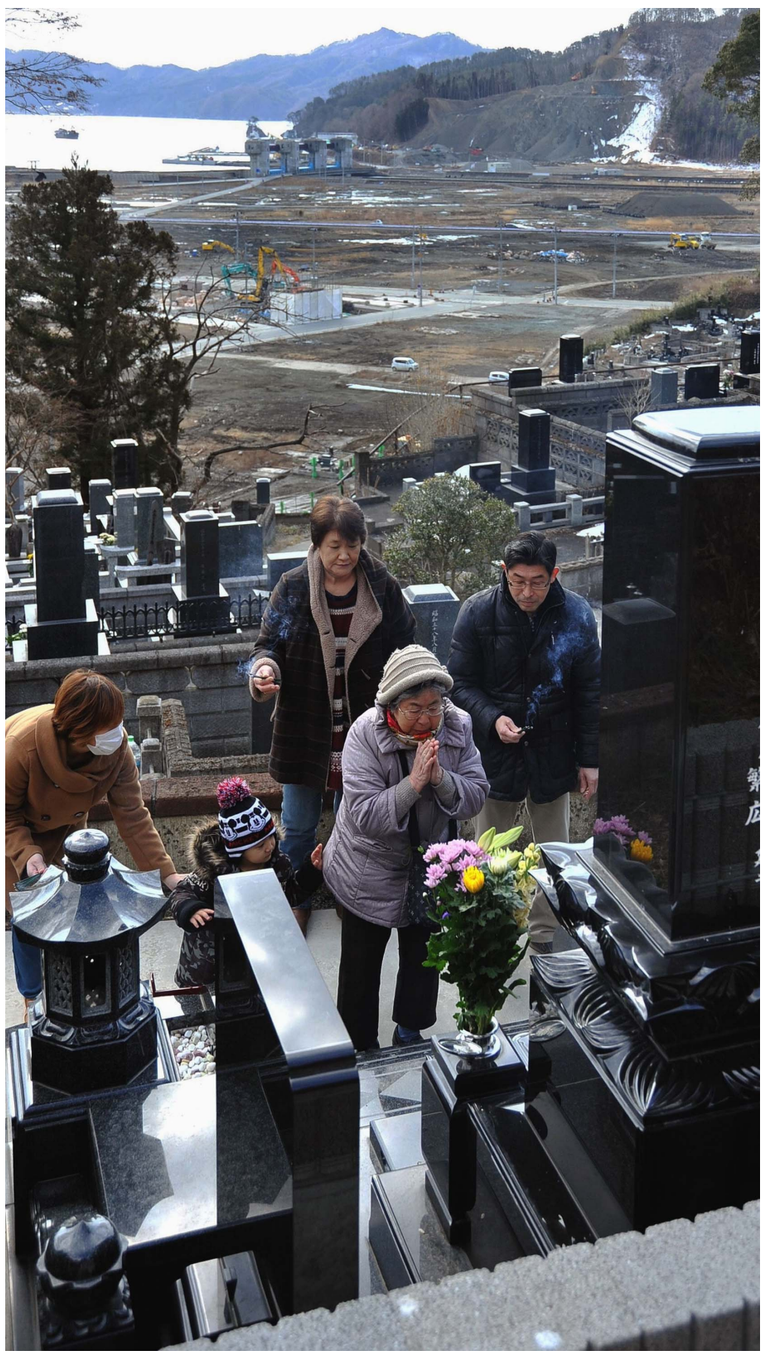
3県で発生したがれき1694万トンのうち、1月末時点で95%の1613万トンが処理された。津波で被災した農地は今春までに7割が復旧し、水揚げが全面的に可能となった漁港も1年前より増えた。しかし、原発事故の風評被害など産業へのダメージはなお深刻だ。

福島第1原発では、核燃料が溶け落ちた1～3号機原子炉などの冷却が続けられている。注ぎ込まれた水は放射性物質を含む汚染水となり、原子炉建屋に流れ込む地下水が混じって増加。大量に保管されたタンクからは漏出トラブルも相次ぐ。4号機では昨年11月、使用済み燃料プールで核燃料の取り出しが始まったが、30年以上かかるとされる廃炉に向けた作業は課題が山積している。

事故をめぐっては、福島県田村市の都路地区で避難指示が4月1日に解除され、原発20キロ圏内の旧警戒区域で初めて住民帰還が実現する。ただ、政府は「全員帰還」の方針を転換。放射線量が高い帰還困難地域については賠償金の上積みで避難先での定住を促す。帰還を前提とした地域でも、国直轄の除染作業が最大3年延長されるなど遅れが目立つ。

3.11 東日本大震災から3年

「あと4人いるはずなのに」



【岩手県大槌町】東日本大震災発生から3年を迎えた11日、津波被害の大きかった東北の沿岸各地は鎮魂の祈りに包まれた。

岩手県大槌町の高台にある江岸寺の墓地では、震災で200基を超える墓石が倒壊。現在は建て替えられた真新しい墓石や墓誌には、「平成23年3月11日」を没年月日とする法名が数多く刻まれている。

この日は早朝から多くの被災者遺族が墓参りに訪れた。

墓地から見下ろせる壊滅した市街地に住んでいて、父兼司さん（享年76）と母チヤさん（同74）、妻峰子さん（同33）、次男一世ちゃん（同1歳5カ月）の4人を亡くした会社員千葉孝幸さん（49）は、長男雄貴君（14）と2人で参拝。

孝幸さんは「3年たっても何も変わらない。昨年11月に家を再建して仮設住宅を出たけれど、2人だけの生活の寂しさは同じ」と声を震わせ、雄貴君は「あと4人いるはずなのにと思うとつらい」と目を潤ませた。（丹羽恭太）

津波浸水地域を見下ろす墓地で故人を悼む遺族（11日午前9時ごろ、岩手県大槌町で。塩原真撮影）

JR北に再び監査

国交省　取り組みを確認

JR北海道のレール検査データ改ざん問題で、国土交通省は11日、安全対策が着実に実施されているか確認するため、14日までの4日間、同社に対し、JR会社法などに基づく監査を実施すると発表した。国交省は常設の監査体制を設け、5年間同社の取り組みをチェックする方針で、今回が初めての監査となる。

監査は本社や現場事務所を対象に実施。1カ月前に安全部門トップの「安全統括管理者」に就任した小山俊幸常務がきちんと任務を果たしているかなどを調べる。

昨年9月の貨物列車脱線事故を契機に、JR北海道のレール異常放置や検査データ改ざんが発覚。国交省は3回の特別保安監査で経緯を調べ、今年1月同法に基づく監督命令などを出した。

新事務局長に河合氏起用へ

帯商

帯広商工会議所（高橋勝坦会頭）は11日、退任する梅澤弘一事務局長（59）の後任に、河合文宏産業振興部長・中小企業相談所長（58）を起用する方針を固めた。総務運営部長を兼任する。4月1日付。

河合文宏氏

河合氏は1955年池田町生まれ、北海学園大卒。80年帯商に入所し、2002年総務運営部総務課長、06年中小企業相談所次長などを経て08年から現職。

梅澤氏は07年に事務局長に就任。昨年9月に退職願を届け出、受理された。退任日は3月31日付。

後任の産業振興部長・同所長には森博文総務運営部長（55）を充てる。（長田純一）

ナイター110日　薄暮は30日間

来年度のばんえい

ばんえい競馬を主催する帯広市は10日、2014年度の開催日程を発表した。4月13日の開幕から、通常開催（デイ開催）より最終レースの発走が2～3時間遅いナイター開催を110日間、来年1月10日からは1時間遅い薄暮開催を計30日間（年末年始、同3月下旬は除く）実施する。開催日数、開催時間ともに今年度と同じ。

土、日、月曜の3日間開催を基本に、正月開催は5日間、開幕週と最終週は日、月曜の2日間開催する。

ナイター開催は最終レース発走を午後8時40分とする95日間（4月13日～11月17日）、午後7時40分とする15日間（11月22日～12月22日）を予定。薄暮開催（来年1月10日～3月16日）は最終レース発走が午後6時40分。今年度は午後7時40分発走の場合は薄暮としていたが、来年度はナイターとして開催する。

年末年始や3月21～30日の計13日間は、最終レースが午後5時40分発走のデイ開催とする。

開催時間を遅くすることで、他の地方競馬との開催時間に差ができ、ネットの馬券発売額の向上につながっている。市ばんえい振興室の田中敬二室長は「ナイター、薄暮期間の拡大による売り上げ増の効果は大きかった。来年度も継続し、収益を確保できれば」と話している。（深津慶太）

編集余録

零年

今年を「戦後69年」と呼ぶとすれば、第2次世界大戦が終わった1945年を「零年」として経過年数を表す。新たな時代の基点が「零年」である▼2011年3月11日の東日本大震災とそれに伴う東電福島第1原発事故を「一千年の地層から／一千年の地へと続く零年／終わりなき始まりの／赤く点滅する区域」と表現した詩人がいる▼福島県南相馬市に住む斎藤久夫さん。「地震・津波・原発事故という現実が、渦巻くように言葉になって押し寄せてきた」ころに書いた詩をまとめたのが、詩集「零年の肖像」（13年、いりの舎）である▼例えば、「言語に絶する光景」を歯を食いしばるようにして描いた上で、「周縁であったときには／中央から撃たれ」た福島が、今度は「世界の『フクシマ』へと撃ちおとされ」たのだと表現する▼そして「四月開花宣言てんでんこ／花は散り　みんな散り散り」と結ぶ。その言葉からは、歯がみの音が聞こえる。悲しみや怒りを超えた表現を探す言葉との格闘がほとばしり出ているからだ▼それから3年。「福島」が「フクシマ」に「撃ちおとされ」た悔しさを改めて思う。零年の象徴としての「3・11」を語り続け、斎藤さんが自らの地にいつか「光り充ちる零年の肖像」が描かれるのを待つように、この国の新たな「肖像」をきちんと描き直さなければならないと切に思う。（武内哲）

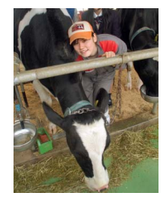
2014・3・11

■配達/購読に関するお問い合わせは　0120-25-3999
■ニュース速報は携帯サイト「かちモバ」http://kachimai.mobi/
■十勝毎日新聞社ホームページ http://tokachi.co.jp/
編集局/22-2121　広告局/23-2323　事業局/22-7555　販売局/24-2222

きょうの紙面

3.11関連記事

帯畜大へ希望の入学　21



十勝でもっと勉強したい―。津波から生還した「奇跡の牛」と共に過ごした宮城の須田空流さんが、帯畜大に入学する。

避難対策進む　14、15

津波被害を受けた十勝沿岸4町では防災・減災対策が進む。新たな階段や避難所の整備も。

・父に「挑戦」誓う卒業式　4
・首相「心の復興」に全力　5
・大槌町、献花の列　20
・十勝でも訓練や追悼行事

陶壁画が完成　13

清水の陶壁画作家鈴木のり子さんの作品「ばんざぁい生命」が完成した。

STAP「証拠ない」　5

ＳＴＡＰ細胞の論文の画像の問題に関連し、共同研究を行った山梨大教授が、成果について「証拠がない」と述べた。

テレビ　6、7、22
エンタメ　9
スポーツ　10、11
ぐるっと18町村　12～15
みんな天才　16
東京圏NOW　17
せいかつ掲示板　18

「清流の里サービス付き高齢者向け住宅」入居者募集

ecotown 清流の里

サービス付き高齢者向け住宅とは

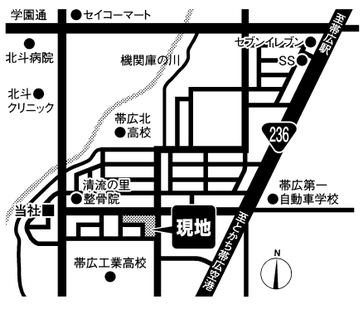
「高齢者住まい法」の改定により創設された、介護・医療と連携し高齢者の安心を支えるサービスを提供する、バリアフリー構造の住宅のことです。この制度は、高齢者が安心して生活できる住まいづくりを推進するために制定されました。住宅としての広さや設備、バリアフリーといったハード面の条件を備えるとともに、ケアの専門家による安否確認や生活相談サービスを提供することなどにより、高齢者が安心して暮らすことができる環境を整えています。

賃料等

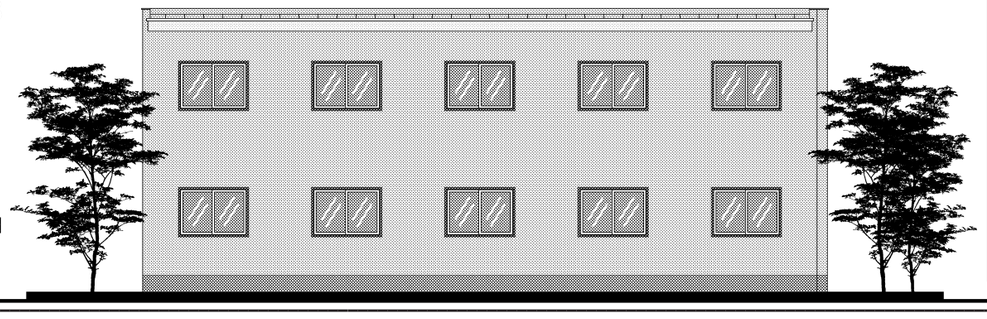
●賃料：29,000円
（但し、帯広市から20,000円の補助があるため9,000円となります）
●共益費：15,000円（4月～9月）、22,000円（10月～3月）
●状況把握・生活相談サービス費：20,000円
●食費（3食）：21,000円（消費税別）
●敷金：87,000円

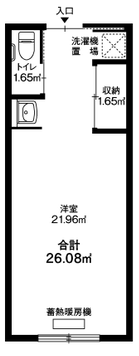
申込み条件

●入居時に満60歳以上で単身若しくは夫婦等であること
●世帯収入が月収158,000円以内であること
●同居者は、申込人の配偶者又は60歳以上の親族（三親等以内）であること



帯広市清流西2丁目22番地6・7・8
■概要
●名称：清流の里サービス付き高齢者向け住宅（3食付、状況把握サービス・生活相談サービス付）
●募集部屋数：10室
●構造：木造2階建て
●居室：個室 26.08㎡（トイレ付）
●共用部分：浴室、食堂
●交通：十勝バス「帯広工業高校前」停徒歩3分
●入居受付期間：平成26年2月20日～3月20日
●入居開始予定日：平成26年4月1日～
●広告有効期限：平成26年3月20日





□サービス付き高齢者向け住宅事業登録番号：道-13第16号
□帯広市供給計画認定番号：帯住宅第102号

入居に関するお問い合わせ

《管理業者》
宅地建物取引業免許／北海道知事 十勝(4)第573号
KIYONOBU 有限会社アルム
帯広市清流西2丁目19番地4 ☎0155-47-0993

《所有者》
KIYONOBU 株式会社アルムシステム
帯広市清流西2丁目19番地4
お問い合わせは ☎(0155)49-4560